

A 適判質疑応答書記載例 ←「00 追加説明書の作成イメージ図」と一緒に確認のこと！

適合を決定できない理由

表 1

建築物の名称	〇〇会社△△△△棟新築工事
構造計算適合性判定受付番号	第 ×××××× 号
建築物の番号	1

表 2

該当図書名	申請書に不備、不明確な点が認められる事項	回 答	該当図書 該当頁等	備考
構造図 S-03	① ----- 計算書の寸法と構造図が不整合です。	構造図 S-03 を差し替えます。	S-03 [構造図補正 A-1 例]	■補正 □追加
構造図	② -----図が添付されていません。	構造図 S-15-a を追加します。	S-15-a [構造図追加 A-3 例]	□補正 ■追加
計算書 p. 254	③ -----の数値が間違っています。	計算書 p. 245 を差し替えます。再計算の結果、部材の変更はありません。	修-p. 254 [計算書補正 A-4 例]	■補正 □追加
計算書	④ -----の検討が見当たりません。	-----追加検討した結果、追-p. 1～追-p. 5を追加します。この結果、B5 を追加したので、図面 S-6 を差し替えます。	追-p. 1～ 追-p. 4 S-6 [計算書追加 A-6 例] [構造図補正 A-1 例]	□補正 ■追加 ■補正 □追加
計算書	⑤ -----の荷重は見てありますか。確認して下さい。	荷重を見直し、再出力しました。一貫計算書を差し替えます。またこの結果、大梁 G2 のサイズを変更しましたので、図面 S-10、S-12 を差し替えます。	S-10、 S-12 [構造図補正 A-1 例] 上部構造 一貫計算 書一式 [追加説明として 一貫計算書差し替え D-1 例]	■補正 □追加 □補正 ■追加
計算書 p. 14	⑥ -----の安全性に問題はありますか。	----- --と考えており、安全性に問題はないと判断しております。 なお、参考資料を添付します。	補正、追加無し、 説明のみの場合 例 付-p. 1～ 12	□補正 □追加 □補正 ■追加
その他 (申請書)	⑦ 申請書第三面の「5. 構造計算の区分」が間違っています。	修正し、差し替えます。	申請書第三面	■補正 □追加

※回答欄は増えても構いませんので、可能な限り丁寧にご記載下さい。

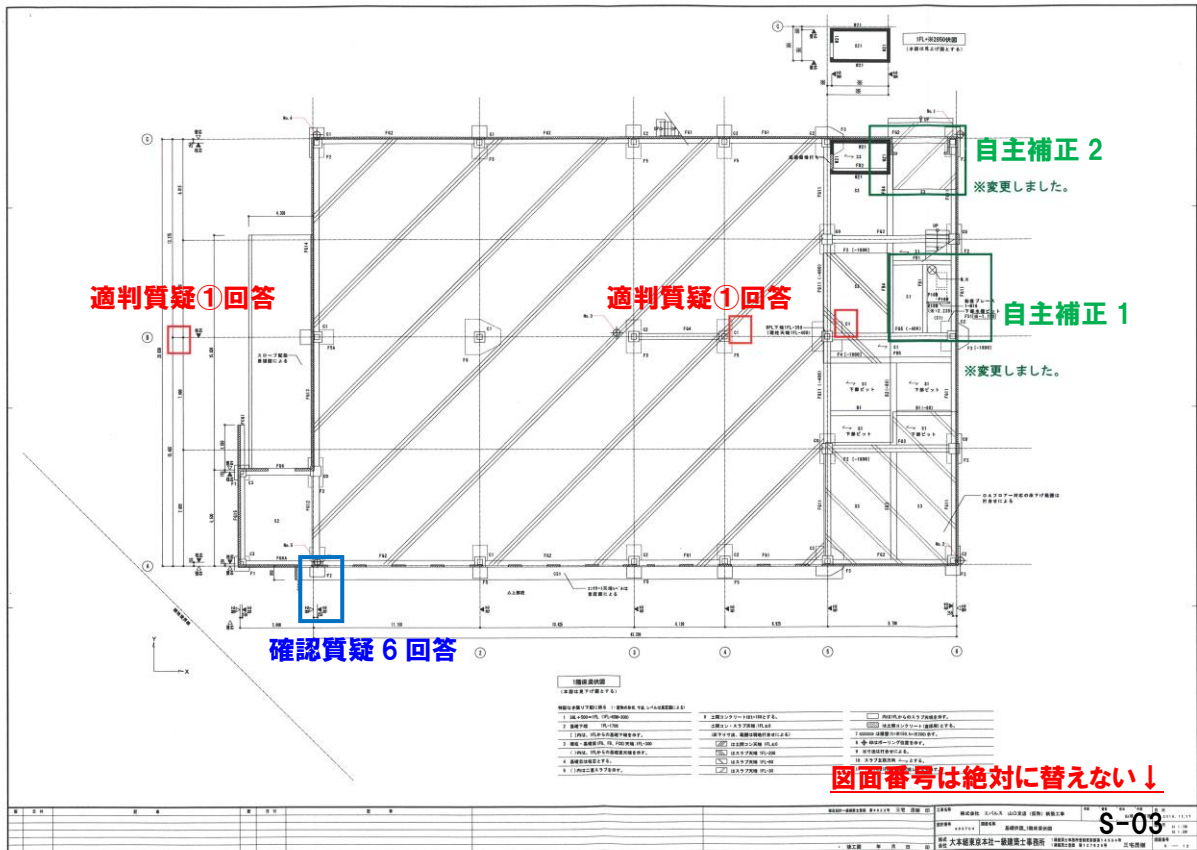
※「該当頁」は、「追-p.1～追-p.5」のように、必ず最終頁までご記載下さい。

[A-1] 図面の補正（差し替え）例…「変更箇所説明図」作成の留意事項

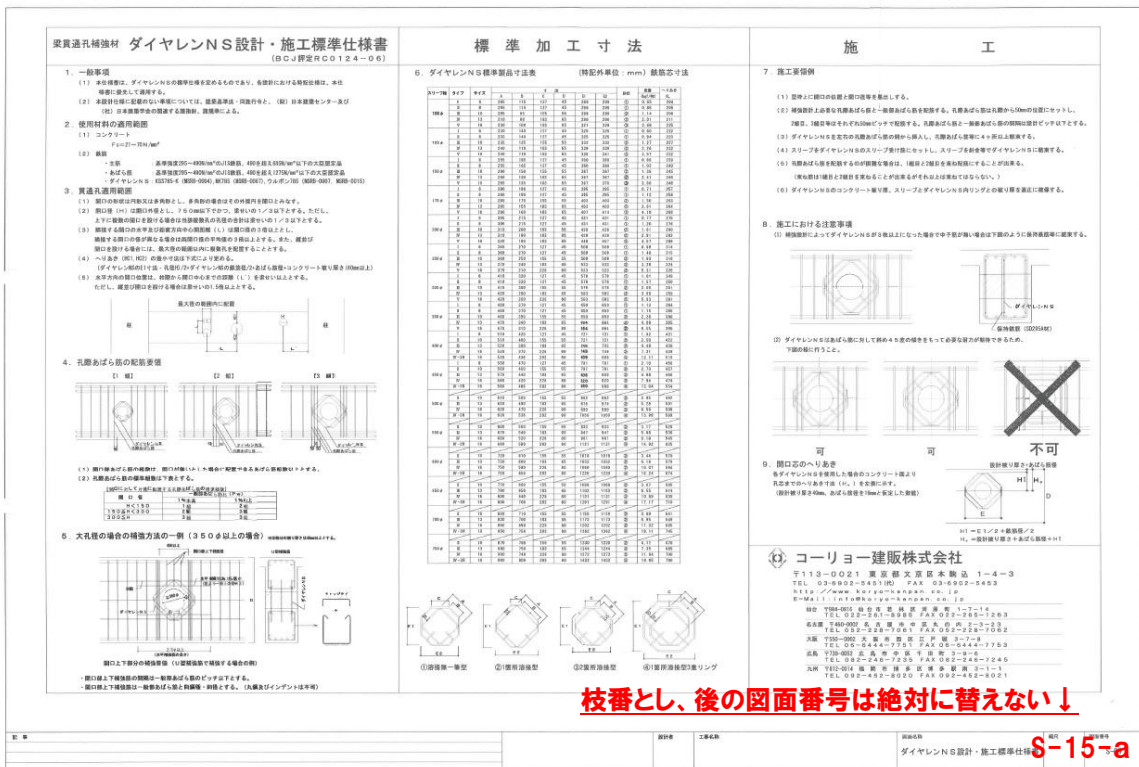
※図面の補正(差替え)の場合は、訂正箇所がわかるように色づけで位置を示して下さい。

また、構造計算適判の補正図面に、確認検査機関や自主変更での追加補正がある場合、構造適判指摘分は 、確認検査機関指摘分は 、自主変更分は(軽微なものに限る) と色を変えて下さい。

※変更・修正した箇所には、必ず指摘対応番号を記載して下さい。



[A-3] 図面の追加例…「追加図面」添付の留意事項



[A-4] 計算書の補正(差し替え)例…「変更箇所説明計算書」作成の留意事項

質疑③回答

※必ず、質疑番号を記載して下さい。

(2)

6 B25	スパン長: 2.10m, 支持条件: 単純梁, 荷重種別: 長期, 梁自重: 0.3kN/m
0.80	6.3 床荷重【4】 10.0 10.0
応力	M = 3.4, Q = 15.6, N = 0.0
部材	H- 250x 125x 6.0x 9.0 (SS400), 端部ボルト 3-M16 (H.T.B. F10T 一面) A = 37.0, I = 3960.0, Z = 317.0
許容応力度	f _t = 156, f _b = 156
曲げ検定比	σ _b /f _b = 0.07, 端部ボルトの検定比 0.17
変位量	δ = 0.2mm = 1/ 9999

※階段重量より
P1=3.9kN/m²
*2.05m*4.97m*1/4
=9.94kN→10.0kN

7 SB40	L=6.56
スパン長: 6.56m, 支持条件: 単純梁, 荷重種別: 長期, 梁自重: 0.6kN/m	
46.046.0 16.0 6.0	
応力	M = 115.6, Q = 61.2, N = 0.0
部材	H- 400x 200x 8.0x 13.0 (SS400), 端部ボルト 5-M20 (H.T.B. F10T 一面) A = 83.4, I = 23500.0, Z = 1170.0
許容応力度	f _t = 156, f _b = 156
曲げ検定比	σ _b /f _b = 0.63, 端部ボルトの検定比 0.26
変位量	δ = 11.1mm = 1/ 590

※小梁の設計
No.4のせん断力より
P1=45.6kN→46.0kN

※小梁の設計
No.6のせん断力より
P2=15.8kN→16.0kN

※小梁の設計
No.5のせん断力より
P3=5.5kN→6.0kN

8 B45 (2F事務所)	L=8.52m t80増打
スパン長: 8.52m, 支持条件: 単純梁, 荷重種別: 長期, 梁自重: 0.7kN/m	
6.3 2.5	
応力	M = 182.3, Q = 85.6, N = 0.0
部材	H- 450x 200x 9.0x 14.0 (SS400), 端部ボルト 5-M20 (H.T.B. F10T 一面) A = 95.4, I = 32900.0, Z = 1460.0
許容応力度	f _t = 156, f _b = 156
曲げ検定比	σ _b /f _b = 0.80, 端部ボルトの検定比 0.36
変位量	δ = 20.4mm = 1/ 416

※床荷重【4】
電算はS3入力ですが、
小梁は安全側としS4で検討する。

※t80増打荷重より
W1=24kN/m³
*0.08m*2.6m*1/2
=2.5kN/m

※条件を替え、再計算しました

9 B39 (2F事務所)	L=6.93m t80増打
スパン長: 6.93m, 支持条件: 単純梁, 荷重種別: 長期, 梁自重: 0.5kN/m	
6.3 2.5	
応力	M = 103.0, Q = 59.5, N = 0.0
部材	H- 396x 199x 7.0x 11.0 (SS400), 端部ボルト 5-M20 (H.T.B. F10T 一面) A = 70.7, I = 19800.0, Z = 990.0
許容応力度	f _t = 156, f _b = 156
曲げ検定比	σ _b /f _b = 0.66, 端部ボルトの検定比 0.25
変位量	δ = 12.7mm = 1/ 545

※t80増打荷重より
W1=24kN/m³
*0.08m*2.6m*1/2
=2.5kN/m

9' B34 (2F事務所)	L=6.93m t80増打
スパン長: 6.93m, 支持条件: 単純梁, 荷重種別: 長期, 梁自重: 0.4kN/m	
6.3 2.5	
応力	M = 85.6, Q = 49.4, N = 0.0
部材	H- 346x 174x 6.0x 9.0 (SS400), 端部ボルト 5-M20 (H.T.B. F10T 一面) A = 51.7, I = 11000.0, Z = 638.0
許容応力度	f _t = 156, f _b = 156
曲げ検定比	σ _b /f _b = 0.86, 端部ボルトの検定比 0.21
変位量	δ = 19.0mm = 1/ 364

※t80増打荷重より
W1=24kN/m³
*0.08m*2.6m*1/2
=2.5kN/m

※構造計算書の補正(差し替え)の場合は、差し替え前のページ番号は~~残し~~、その横に修正ページ番号を追加記載して下さい。

p. 245

修-p. 245

当初の頁を残し、

質疑回答書の「該当頁」を記載する

[A-6] 計算書の追加例…「追加計算書」添付の留意事項

質疑④回答 ※必ず、質疑番号を記載して下さい。

○ 方杖(横補剛)の検討 -4

$F_m = 0.02 \cdot C_m$

$C_m = 1.1 \times \sigma_y / (0.5 \cdot A_g)$

F_m : 大梁の圧縮側合力の 2% <KN>

C_m : 大梁の圧縮側合力 <KN>

σ_y : 大梁の降伏応力度 <N/mm²>

A_g : 大梁の全断面積 <mm²>

A_h : 横補剛材の全断面積 <mm²>

位置	G通 3-4	E通 4-5	E通 5-6	6通 E-G	
大梁					
符号	2G9	2G2	2G3	2G5B	
部材	H-440X300X11X18	H-440X300X11X18	H-440X300X11X18	H-440X300X11X18	H-568X300X12X20
A_g (X10 ²)mm ²	157.40	157.40	157.40	157.40	192.50
σ_y (N/mm ²)	235	235	235	235	235
方杖					
符号	Z16	Z17	Z18	Z22	
部材	L-90X90X10	[L-125X65X6X8]	[L-125X65X6X8]	[L-90X90X10]	[L-90X90X10]
A_h (X10 ²)mm ²	17.00	17.11	17.11	17.00	17.11
A_{he} (X10 ²)mm ²	8.55	8.42	8.42	8.55	8.42
l_y (mm)	17.4	19.6	19.6	17.4	19.6
L (mm)	415	520	520	415	415
z (mm)	23.9	26.5	26.5	23.9	26.5
L/t_c (N/mm ²)	151.5	150.1	150.1	151.5	150.7
角度(°)	0	0	0	0	0
$1/\cos \theta$	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
N-耐力(KN)	40.7	40.7	40.7	40.7	51.1
σ_c/f_c	0.21	0.21	0.21	0.21	0.26
判定	OK	OK	OK	OK	OK
σ_t/f_t	0.20	0.21	0.21	0.20	0.26
判定	OK	OK	OK	OK	OK
H					
T					
B					
耐力(KN)	M20	M22	M22	M20	M22
M22, M20	70.6	85.5	85.5	70.6	85.5
必要本数	0.58	0.48	0.48	0.58	0.60
設計本数	2-M20	2-M22	2-M22	2-M20	

質疑④追-p. 1

応力 $M = 0.0kN \cdot m$, $Q = 0.0kN$, $N = 27.8kN$ (直接入力値)
 部材 H-175x90x5x8 (SS400)
 $A = 22.9cm^2$, $I = 98cm^4$, $Z = 21.7cm^3$, $l_{kx} = 2.40m$, $l_{ky} = 2.40m$
 細長比 強軸 : 33.0, 弱軸 : 116.0
 許容応力度 $f_t = 235N/mm^2$, $f_c = 103N/mm^2$ (短期)
 曲げ検定比 $\sigma_c/f_c = 0.12$

質疑④追-p. 2

質疑④追-p. 3

質疑④追-p. 4

一連のものは、連続頁とする。

※「追加」の場合、解答ごと先頭に表紙をつけてすべての頁をまとめ、該当資料に「追加資料 1」「追加資料 2」とする場合も可。再質疑対応などが想定される場合などは、こちらのやり方の方がよい。

[D-1] 一貫計算書を流し替えた場合…「一貫計算書修正・補正一覧表」の留意事項

※構造適判中または確認申請での指摘により、一貫計算書を大幅に変更され流し替えられた場合は、追加説明書（当初計算書も有効…）として添付される場合に限り、「D-1 一貫計算書修正補正箇所一覧表」にてご報告下さるようお願いいたします。（添付する記載例を参考にして下さい。）

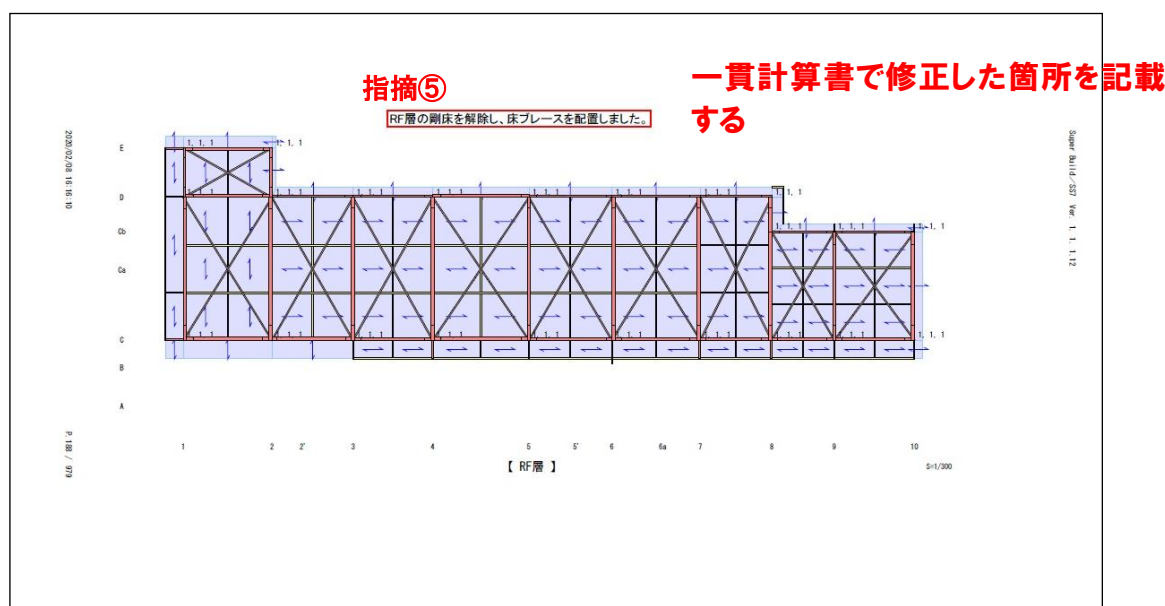
※また、修正内容がモデル全体に大きな影響を与え、部材を変更するなど結果が大きく変わった場合などは、追加説明書には、必ず流し替えた一貫計算書(D-2)を添付して下さい。

※大幅な変更があった場合は、再度判定員に確認を取ったり、再審査したりする場合があります。

※軽微な場合、比較的変更箇所の少ない追加検討確認の場合は、資料は抜粋版で可。

※自主補正による流し替えは厳禁です！

■ 構造計算適合性判定審査及び「適判確定後」の確認申請指摘により 一貫計算書を流し替え、追加説明書として使用する場合の入力修正・補正箇所一覧表						
物件名：××××新築工事		作成者：○○○○		提出日：令和○年○月○日		
番号	構造適判指摘 確認申請指摘の別	指摘番号	修正項目	具体的入力修正内容	出力結果で補正のあった箇所	
					計算書	構造図
1	構造確認	⑩	荷重の訂正	小屋組の「束材・小梁の支点」を集中荷重で入力設定。	P8	
2	構造確認	⑪	限界変形角	保有水平耐力の限界変形角の設定(1/100)。	P324	
3	構造確認	61,78,82	建物概要	延べ面積、建築面積等の訂正(構造計算概要書)。	構造概要書 P2	
4	構造確認	85,86	部材種材	B1,B2の部材を訂正	P22,24	
5	構造確認	88	継手位置	図面と合っていない継手位置の訂正。	P190~194	
6	構造確認	68,69	荷重の訂正	「庇」と「空調機」の重量の訂正。	P37,366,367	
7	構造確認	⑪	支点反力	軸力と支点反力の一致	P135,138,13	
8	構造確認					
9	構造確認					
10	構造確認					



※修正箇所が少ない場合、部材の変更等大きな変動がない場合は、抜粋で可とします。

※判定員の指示により、流し替えた一貫計算書を、追加説明書資料として全部送っていただく場合があります。

メールでのやり取りの際は、データ便等を活用してお送りください。

[C] 自主補正のあった場合…「自主補正リスト」の留意事項

※自主補正の場合は、質疑応答書に追記するのではなく、別途送る「自主補正リスト」に「理由」「内容」「補正を行った箇所」等に記載の上、ご提出ください。

※自主補正として扱えるものは、基本、図面上の不整合や符号の間違いなど、軽微なものに限ります。構造適判や確認での指摘がないにもかかわらず、部材を変更したり、一貫計算書を流し替えることは厳に慎んでください。

補正内容によっては、軽微なものではなく、計画変更の手続きの対象となる場合があります。判断に迷われる場合は、まずは確認検査機関にご相談下さい。

■構造計算適合性判定審査後に自主補正を行った場合の修正一覧表 [記載例]

物件名：_____

作成者：_____ 提出日：_____ 年 _____ 月 _____ 日

番号	修正理由	具体的修正内容	補正を行った箇所(具体的に)	
			計算書	構造図
1	部材寸法の誤記	小梁 B5 の寸法修正		S-16
2	伏図に寸法未記入	寸法記載		S-20 追記
3	計算書・図面不整合	ボルト 2-M16→2-M20 に修正	P.3-4	
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				